

単元案の概要

講義名：フランス語構文

大学から第一外国語としてフランス語を学び始めた学習者を対象とした作文の授業。一年次に学習した文法を復習しながら、簡単な作文を行なう。今年度4月より授業を担当。使用教材は、『Plume à la main 新・フランス語作文』（駿河台出版社、2011年）。

2013年度秋学期より部分的に「めやす」の方法論を導入して授業を行なった。指定の教科書にしたがって学習を行なうことを継続する一方で、既習事項を用いて具体的な成果物を作成することを各課の最終目標に設定した。なお講義の目標は、基本構文を学び、初歩的な作文を行なうことである（コースに共通したシラバスに明記）。授業では使用教材の学習単元が提案するテーマを参考にして、学生がグループワークで具体的に取り上げるトピックを選び、作文を行ない、提出する。今学期扱ったテーマは、1) 日本の料理のレシピ作成、2) 日本の観光地の紹介、3) お勧めする日本のお土産、4) 日本の生活習慣で気をつける点、5) 大学の授業外活動の紹介の5テーマであった。

学習シナリオ

テーマ：フランス語話者の留学生に向けて日本文化の紹介文を作ろう。

目標：大学にいるフランス語話者留学生、また将来来る留学生に向けて、日本の生活習慣を紹介する文をまとめて小冊子、もしくはpdfを作成する（実際には冊子にまとめるまではいかなかった）。

言語運用レベル：2

- 既習の文法事項の確認をしつつ、学んだ語句や文を選択して、あるテーマに沿った文章を作成することができる。（対人）
- 社会文化背景を理解して、テーマにしたがってより効果的な形式を使い分けることができる。また、聞き手に応じて表現（プレゼンテーション）方法を選択することができる。（提示）

コミュニケーション能力指標：

<自分と身近な人々>

- ・家族の職業やペットについて紹介する文章を書くことができる

<学校生活>

- ・大学の簡単な概要を説明した、簡単な資料を作ることができる
- ・大学での過ごし方を紹介する文章を書くことができる

<日常生活>

- ・日常の生活の様子について書いて紹介することができる

<食>

- ・料理を勧めることができる
- ・メニューを見て、大きな分類を説明することができる
- ・支払いの仕方を書いて説明することができる
- ・日本の食生活について簡単に説明する文章を書くことができる

- ・料理の大まかな作り方(簡単なレシピ)を作ることができる

<趣味と遊び>

- ・休みの日によくすることを説明し、簡単な感想を書くことができる

<買い物>

- ・買い物の情報を書いて、アドバイスできる

<交通と旅行>

- ・目的地までの所要時間や費用について、書いて教えることができる
- ・目的地までの交通機関、ルートを書いて教えることができる

<地域社会と世界>

- ・自分たちの住んでいる町や都市について紹介する簡単な資料を作成することができる
- ・日本の有名な観光地を文章で紹介できる
- ・身近な社会制度について簡単に書いて紹介できる
- ・日本について簡単に紹介する資料を作成できる

<自然環境>

- ・日本や、各地方の気候や地理の大まかな違いを書くことができる
- ・自分の住んでいる地域にある景勝地を書いて紹介できる

学習シナリオ

<1週目>

大学二年生の「フランス語構文」のクラスでは、一年次に学習したフランス語能力を復習するとともに、フランス語の基本構文を用いて、簡単な文章を作文することができるようになることを目標にしている。授業の構成は二コマの授業で一単元を終え、その翌週にグループワーク(3~4人)による成果物を提出してもらうことにしている。

各課で与えられている具体的な状況に即した学習事項(文法、語彙、表現)を確認する。文法に関しては復習が主なため、宿題として教科書の練習問題を解いてもらう。一週目の授業では宿題の確認を行ない、必要に応じて説明を行なう。その翌週には学習事項の確認テストを行なう。確認が終わるとグループを形成し、教科書の学習単元で設定されている状況に応じた作文課題を与える。例えば「観光情報を伝える」という単元では、学生のグループが日本の観光地、景勝地、建造物などを選び、学習内容をもとにして自由に紹介文の作成を行なう。

<2週目>

確認テスト(筆記試験)を実施した後、グループを形成、作文のためのテーマ設定を行ない、インターネットや参考文献を用いて情報収集を行なって、作文の下書きをする。作文の分量はA4以内を長さの目安にするように指示を出した。作文の内容、構成、文章については学生間で議論する。授業内で下書きしたものを示してもらい、修正が必要な箇所を教員が指摘、修正を求める。ただし正しい答えは与えない。質問は随時受け入れる。

<3週目>

授業で宿題を返却できるよう、学生は下書きを修正し、メールにて成果物を提出する。その際にはフランス語をタイプするだけでなく、写真を入れたり、レイアウトを考えたりするなどの工夫をして、読み手に配慮するように求めた。また文章の構成や表現形式を考えるように指示をした。この点も評価の対象とするこ

とはルーブリックにも示している。提出してもらった課題にも間違いが含まれているため、こうした修正と提出を何度か繰り返し、文章を整えていく。

＜学期末＞

各グループがそれぞれ作成した資料をクラスに掲示し、優れている点、改善できる点を話し合う時間を設ける予定である(小冊子にして国際交流センターで発表、掲示することも考えたが、今学期は実現できなかった)。

総括的評価：

- ・簡単な文章で日本について紹介、説明する文章が書けるようになる。教科書の練習問題だけではなく、自分たちが伝えたい内容について簡単な文書が作成できる。
- ・読者を想定して、読みやすさや読んでもらうための工夫をすることができる。
- ・日本文化に精通していない相手に日本の文化を伝えることができる。フランス語圏、特にフランスの文化と日本の文化を比較し、異文化圏の相手に日本の文化をどう伝えるかを考えることができる。また文化間の相違を理解することができる。

テーマ:フランス語話者の留学生に向けて日本文化の紹介文を作ろう

3×3+3 分析

	わかる	できる	つながる
言語	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化や生活を簡単に説明するための言語表現がわかる。 レシピを書くために必要な文法や語句、表現がわかる。 勧めたり、禁止したりするための表現や構文がわかる。 観光案内するための表現や語彙がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の観光地の紹介ができる。 ものの価格を伝えることができる。 日本の生活や文化をフランス語話者に簡単に説明することができる。 フランス語で書かれた本やサイトから基本的な情報が収集できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループが作成した紹介文を理解することができ、質問することができる。 わからないことを尋ねることができる。
文化	<ul style="list-style-type: none"> 自国の生活とフランス語圏文化の生活との相違を理解する。 自国の文化を再発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の日常生活において、異文化間に存在する相違点に気づくことができる。 異文化間の共通点や相違点を考慮して、紹介すべき内容を吟味することができる。 自身のもつステレオタイプと現実とのずれを認識することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の生活文化に慣れていない、もしくは日本について知らない人に向けて、簡単な情報を発信し、他者の文化に積極的にかかわり合う。 異文化を観察し、先入観やステレオタイプを乗り越え、異文化と向き合う意識をもつ。 異文化理解のために教室外のフランス語話者とふれあう機会を大切ににする。
グローバル社会	<ul style="list-style-type: none"> 自国の生活や文化について基本的な情報を紹介することで、他者との対話関係をつくる。 異文化について簡単な情報を得ることにより、相互理解の大切さを理解する。 グローバル社会において情報の発信、収集、分析を行なうためのスキルを身につけることの大切さを知る。 社会の一員として自分を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の生活文化にも関心をもって、異文化社会における自分の役割について考えることができる。 情報の収集、調査、発信手段を活用して、簡単な自分の意見を伝えていくことができる。 協働活動を通して、問題を発見し、解決するために最良の手段を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学内の留学生、交際交流センターを通して、自分たちの成果を発表する。 自分のコミュニケーションスキルを活かして、留学生と積極的に交流していく。 集団の中で自分の役割を認識し、些細なことでも実際に行動に移す。
三連繋	連繋 1 連繋 2 連繋 3	グループ学習を通して、他の学習者と繋がる。 様々な授業での既習事項や自己の経験と繋がる。 教室外の状況を意識し、実際の文脈と繋がる。	

テーマ:フランス語話者の留学生に向けて日本文化の紹介文を作ろう

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
フランス語のレシピを読み、 レシピの書き方を知る。 レシピを作成する上で必要な 文法事項（命令法、数量表現 など）、基本的語彙を習得する。	フランス語のレシピを参考にして、自分が選んだ料理レシピを作成する。 レイアウトや写真などを用いて、わかりやすさと視覚効果も考慮し、読み手への配慮を意識する。	個々のタスクにおいて実際の資料を参考にし、教科書以外の資料に触れる機会をもつ。フランス語の資料を扱う時に困らないように、基本的なテキストの構造を確認しながら、フランス語の理解に努める。 資料の中にある頻度の高い表現や教科書に掲載されている学習事項、語彙・表現を確認しつつ、自国の文化を紹介することに努める。 自国と他国との間にある文化的異同を見出す。異文化に対する偏見に学習者自らが気づき、異文化の理解に努める。	外国人、とりわけフランス人が興味を持つ日本文化について情報を収集し、理解に努める。その情報に基づいて、日本の生活文化について簡単なフランス語を用いて紹介文を書くことができる。 設定 学内にいるフランス語圏からきた留学生に日本文化や生活習慣を簡単に紹介、説明する文を作成する。 学内で留学生と接する機会があれば、口頭インタビューを行なうことも可能である。また書籍やインターネットを使い、外国人から見た日本文化や生活習慣に関する情報を入手する。それをもとにして日本の紹介文を作成する。
観光案内に必要な表現を 教科書を使って学ぶ。 実際の観光ガイドを観察して どのように書かれているかを 分析する。	調査した内容と自分の先入観とのずれを確認しながら、フランス語話者に紹介するための日本文化、日本の生活や習慣、日本の観光地、景勝地を決める。それらのトピックについて紹介する文章を教科書で学習した事項や、現物の資料で用いられている簡単な表現を駆使して、簡単な紹介文を作成する。	読み手に配慮した文章を作成することを目標にする。文章の目的を理解し、書き方（語彙選択、形式、文体）を工夫することを覚える。	「構文」の授業のため、初歩的なフランス語作文能力を身につけることが目標として掲げられるが、教科書の説明や練習問題を通してフランス語の文の構造を学ぶだけでなく、現実の文脈に少しでも近い状況でフランス語を用いることを目指し、日本文化の紹介をテーマに設定した。
物事を勧める表現を学ぶ。 外国人が好む日本のお土産について調査する。	自分の主張を効果的に伝達するために工夫を施す（文章の展開、図版、データ、画像の利用など）。生活習慣の違いを意識し、相手に必要な情報を吟味する。		
忠告や禁止の表現を学ぶ。 日本特有の生活習慣について考える。日本の生活習慣とフランスの習慣とを比較する。			作文の授業を通して、フランス文化に興味をもち、フランスと日本の文化の差を認識し、自文化を相対化させること、また先入観や偏見を排除し、異文化に対して開いた態度で接することを意識化する。
日本の大学生の日常生活について紹介するための表現を学ぶ。 日本とフランスの大学生の生活の違いについて考察する。			教室外でのつながりの実現はこんなんではあるが、来学期以降大学の協力を得て、実際に留学生とのつながりを持つ機会を確保したい。

テーマ:フランス語話者の留学生に向けて日本文化の紹介文を作ろう

自分の過ごした余暇の経験を語る。 日本とフランスの余暇の過ごし方について調査し、相違点を見つける。	自分の経験を語りながら、一般的な議論へと論を展開する。 余暇に対する相手の文化的、生活習慣的な差異を確認し、異文化理解を深める。		
--	---	--	--

ルーブリック評価（総括的評価）

テーマ:フランス語話者の留学生に向けて日本文化の紹介文を作ろう

	4目標以上を達成	3目標を達成	2目標まであと少し	1目標達成まで努力が必要
内容のまとめり ×2 (20点)	必要な内容より多くのことを、創造力を駆使して表現している。細かい点も詳しく書かれている。内容も正確。	タスク達成のために適切な内容が書かれている。創造的に詳しく書かれている部分がある。内容は正確。	必要な内容を大体カバーしているが、創造力が不足している。内容はほぼ正確。	最低限の内容、あるいはそれ以下しかカバーされていない。内容に間違いがある。
構成 (10点)	文章の構成が明確である。導入部に始まり、文章の展開がはっきりと表現されている。	構成が不明確な箇所はあるが、文章の展開が明快である。	文章の流れは認められるが、構成に更なる配慮が必要である。	文章の構成が不明瞭であり、それぞれの部分の関係づけが不十分。
理解しやすさ (10点)	文法・語彙・表現に多少の問題はあるが、文章は完全に理解できる。	文章・語彙・表現の間違いが時々あり、理解しにくい部分があるが、タスク達成の支障にはならない。	文章・語彙・表現の重大な間違いのために、理解できない文章があり、内容が理解できないことがある。	文章・語彙・表現の問題が多く、理解できない部分が多い。
表現（語彙・文法・構文） ×2 (20点)	表現が豊富で、適切に使われている。	内容を伝えるために必要な表現が適切に使われている。	表現に誤りがある。同じ表現が多用されている。	表現の間違いが頻繁に見られる。決まった表現しか使っていない。
読み手への配慮・作業中の態度 ×2 (20点)	内容を伝えたいという工夫がなされている。文脈に応じた形式（書式、文字の大きさ、書き方）を選択している。全員が積極的に作業に加わる。	内容を伝えたいという努力が感じられる。形式にも問題がない。全員がタスク達成のために参加している。	読み手への配慮が不足している部分があり、表現したいことが伝わらない箇所がある。グループ作業に困難がある。	読み手への配慮がなされていない。作業に参加せず、授業に集中していない者がいる。

指示文

授業のテーマは「日本の生活や文化を紹介する文章の作成」である。教科書の学習事項にそったテーマが設定されており、二週毎に別々のテーマを扱う。したがって、大枠のテーマである日本の生活や文化を紹介する文章の作成と、個々の単元のタスクと指示文が存在する。ここではプロジェクト開始時に告げた指示を記載する。

・プロジェクト開始時の指示文

今学期からこの構文の授業では、教科書で学習した事項を用いて日本を紹介する文章を作成してもらいます。これから二週間に一度、教科書のテーマにそったトピックを学生に決めてもらい、紹介してもらいます。作文を学内にいるフランス語話者に読んでもらうこと、そしてこれから来る留学生のために資料を作成することを目標にします。

来週は教科書第〇課の「観光情報を伝える」の単元を学習したのちに、日本の観光地について紹介文を書いてもらいます。教科書を用いて必要な文法事項、語彙や構文をチェックします。練習問題は家で済ませておいてください。来週教室でチェックします。質問を準備してきてください。再来週、教科書の学習事項が理解できているかの確認テストを行ないます。

再来週からは作文に取りかかります。作文はグループワークで行ないます。来週教科書の確認が終わったら、グループを作り、「日本の観光地を紹介する」ための文章を作成してもらいます。作業の進め方を説明します。

紹介する場所はグループ内で相談して決めてください。グループ内で扱うトピックが決定したら、トピックを紹介するための情報を収集してください。その際にはインターネットや書籍、自分の経験を頼りにして、フランス人やフランス語圏の方が人気の場所や興味ある場所を調べましょう。授業外時間に国際交流センターでインタビューを行なってもかまいません。その時には日本語の情報媒体を使用してもかまいませんが、フランス語の情報媒体も積極的に入れてください。収集した情報をもとに紹介文を作成しましょう。教科書で新しく学んだ表現を用いることを第一に考えてください。文章は自分たちで作成しましょう。情報源からの無断引用は厳禁です。文章はA4一枚から二枚でまとめられるように、簡潔に書くことを心掛けてください。

まずは手書きで草稿を時間内に作り上げてください。完成次第、教員に提出してください。教員が修正箇所を指示しますので、その箇所を直してもらいます。質問は随時受け付けます。修正が終わったら、完成版の作成に着手してください。タイプでも手書きでもかまいませんが、読み手に配慮した文書を作成してください。紹介文の性質により、レイアウトや写真やデータを使用してください。決められたフォーマットがある場合には守りましょう。文章の構成も考えて、説得力のある文章を作成するようにしましょう。週明けの月曜日にメールに添付して提出してください。

学期末に各グループが作成した成果物を掲示し、クラス全員で評価します。また一人一人がこの活動を

通して何を意識しながら作業したのか、何を継続し、何を改善すべきかについて発表してもらいます(この最後の自己評価の発表は日本語で行ないます)。

総括的評価について

日常点(小テスト、課題提出、出席点)+グループワークの評価+身近なテーマに関するフランス語作文をしてもらう予定である。

形式的評価について

教科書の各単元の学習が終了後、学習事項の確認のために、ペーパーテスト(文法、語彙、構文)を行なっている。そのあとに始める紹介文作成のために必要と思われる箇所を教科書の例文から選び、若干語彙に変更を加えて出題している。この小テストは総括的評価に加点すると告知してある。

また小テストや提出済みの成果物の誤りが目立つ場合には、必要箇所を修正させ、再提出させる。

グループ学習を行なうためコンスタントな出席が必要となる。朝一時間目の授業ということもあり、今回は出席点を設ける。